

# 星の茶屋

有森信二

三十三茶屋という  
店の名の由来は知らないが  
都府楼跡の正面にある  
星野村のお茶屋さん

ガラス戸を開けると  
ほうじ茶の香ばしさと  
店員さんの笑顔が  
ふんわりと迎えてくれる  
染みとおりそうな明るい笑顔で

山椒の辛味の効いたおにぎり  
梅干しの歯ごたえのよいおにぎり  
小さなおにぎりが三個

オリオンのかたちに並ぶ

山菜のつくだに

こんやくの刺身

茸のおすまし

たっぷりとしたほうじ茶

星野村の調度に囲まれ

一輪挿しの椿の蕾や

埋み火の火鉢などに囲まれ

全天に降る星を仰ぐかに揺られ

渉りゆく風がゆつくりと流れ

小窓いつばいに

千四百年の時が広がり

都府楼跡の原っぱが正面に広がり

淡い春色に移りつつあり

時間がゆるやかに流れ

呼吸もゆるやかに流れ

いまもまた

千四百年の波音のうらうらを

逍遙し止まぬ星たちと共に流れる